

令和元年 8 月

普及活動報告



被害防止策について説明（普C）



園芸施設共済の制度説明（NOSAI）

～台風シーズンに向けて対策の徹底を～ 園芸用ハウス被害防止対策研修会を開催 (亀岡市：20日)

本格的な台風シーズンを迎えるにあたり、亀岡市内の施設栽培農家を対象に、普及センター職員から台風対策マニュアルに沿って、パイプハウスの台風対策の徹底を呼び掛けました。また、農業共済組合から園芸施設共済の制度について説明されました。

「防風ネットを設置すると、どのくらい風速を抑えることができるのか」などの質問が出された他、「今日参加できなかった方にも内容を伝えたい」と資料を持ち帰る参加者がいるなど、関心の高さが窺えました。普及センターは、引き続き被害防止対策の徹底を呼び掛けていきます。

場 所 亀岡市役所

出席者数 33名

平成30年度台風21号によるパイプハウス等被害は609棟（南丹管内）

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 8 月

普及活動報告

第 7 回京都丹波就農サポート講座 ～鳥獣害対策を学ぶ～

(全域：20日)



鳥獣害対策の説明（普及C）



獣害防止柵設置のポイントを解説（農林C）

今回は、普及センターから映像を用いてイノシシやシカをはじめとする動物の生態や農作物の被害状況と対策について説明しました。その後、農林センター職員から、展示している獣害防止柵について、圃場の起伏や水路の形状に合わせた設置方法を解説しました。

受講生からは、「防護柵以外にも対策を知ることができて良かった。収穫残渣には気をつけたい」「実物を前に説明がしてもらえたので分かりやすかった」等の感想が聞かれました。普及センターは、残り3回の講座を通じて農業の基礎技術や知識の習得を支援していきます。

場 所 農林センター

参加者数 19名

受講生は21～53歳（平均年齢37歳）。南丹管内の実践農場研修生や就農予定者、就農間もない農業者及び障がい者就労支援事業所の職員が参加

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 8 月

普及活動報告

～小豆の難防除雑草ホオズキ対策～

除草カルチ作業を実演

(亀岡市：22日)



作業状況を見学

普及センターでは、平成30～令和2年の3箇年の重点課題として小豆の雑草防除に取り組んでいます。

その中でもホオズキ類は繁殖力も強くやっかいな雑草ですが、その対策として除草カルチ作業を検討しています。この作業は、表層を軽く耕すことにより雑草を根から掘り起こして枯らしてしまう方法です。

8月9日に続き、今回2回目の作業実演を行いました。

今回の実演では、「カルチ機をトラクターで牽引したため、生育中の小豆を踏みつけることもあったが、田植機ならタイヤ幅も小さく踏みつける危険が減るので、その方法を取り入れたい」と検討されていました。



作業後、農家組合で意見交換

場 所 亀岡市馬路町、河原林町

出席者数 14名

令和元年 小豆栽培面積：60ha (亀岡市)

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 8 月

普及活動報告

～適期は種で単収増を目指す！～

花菜の栽培研修会を開催

(亀岡市：27日)

写 真 無 し

9月から花菜の栽培が始まりますが、
昨年は台風などの影響により、ほ場準備
や種作業の遅れが原因で株が大きくな
らず、収量が大きく減少しました。そ
こで本研修会では、できるだけ早くほ場の
準備を行い、は種を9月中に終えるよう
呼び掛けました。

参加者からは、「9月中のは種が安定
生産に繋がるのが理解できた」という
コメントがありました。普及センターは、
関係者とともにほ場巡回を行い、初期生
育の確保に向けて支援していきます。

場 所 JA京都亀岡川東支店
出席者数 16名

令和元年度 JA京都京野菜部会亀岡支部花菜部会：生産者約20名

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 8 月

普及活動報告

～シュンギクの安定生産に向けて～ 栽培研修会を開催 (南丹市：28日)



栽培のポイントを説明

9月からのシュンギク栽培を控え、普及センターから、は種・育苗から定植までの技術的なポイントや病害虫の生態・防除などを説明しました。JAからは、昨年の販売実績や野菜等経営安定対策事業についての説明がありました。

参加者からは、育苗時の水分管理についての質問が出るなど、栽培に取り組む意気込みが感じられました。普及センターは今後、JAとともにほ場を巡回して助言・指導を行います。

場 所 JA京都園部黒田支店
出席者数 31名



熱心に耳を傾ける生産者

南丹市園部町 シュンギク生産者：約40名

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 8 月

普及活動報告

～需要に応じた生産を支援～
加工用とうがらしの研修会を開催

(亀岡市：30日)



実需者も交えて栽培管理技術を

亀岡市内を中心に、契約栽培による唐辛子栽培が行われており、主にJAが集荷と契約先との調整役を、普及センターが技術指導を行っています。

今回は、JAからの出荷方法についての説明の後、普及センターから成り疲れを防止するこまめな追肥、かん水、整枝・せん定方法や病害虫防除などについて説明しました。

今年から品種を切り替えたため、栽培しにくいと感じている生産者もいることから、普及センターは品種特性に応じた栽培管理について継続的に支援していきます。

場 所 JA京都亀岡川東支店ほか
出席者数 11名

令和元年 加工用唐辛子栽培者：約23名

京都府南丹農業改良普及センター